

看護衣の被服構成学的研究 (第4報)

—— 色物看護衣の夏・冬における印象調査 ——

高橋 房子・小松 栄

A Study on Nurse-Uniforms from the Point of Clothing Design (Report 4)

The survey of impressions, both in summer and winter, upon the colored nurse-uniforms.

Fusako TAKAHASHI and Sakae KOMATSU

緒 言

本研究では、看護衣のより機能的な Design を生み出すために、被服構成学的な検討を加えているが、試作にあたり色物を使用したのが、これが患者ならびに看護婦自身にどのような印象を与えるかについて調査した。

表1 調査の条件

季節		夏		冬	
調査の時期		(晴天) 8月の最も暑い日		(大雪) 2月の最も寒い日	
室内温度		26°C~28°C		16°C~18°C	
患者の 年齢と 性別	男	18才~74才 24名	計 68名	13才~77才 30名	計 61名
	女	16才~76才 44名		20才~81才 31名	
看護婦の 年齢と 性別		19才~52才 88名		20才~53才 56名	

すでに、広島市内における総合病院で最も暑い夏に調査を行なったので(第3報参照)、今回は、その中の某病院にて冬期調査をして、これを前回のその病院の夏期調査と比較してみた。以下その結果を報告する。

I 調査対象および方法

表1のように夏期調査が晴天の最も暑い日に行なわれたので、冬期調査は大雪の最も寒い日

を選んだ。気候条件は理想的といえるが、アンケート調査としては、常時忙しい看護婦と患者の重傷者はだめなので、大変困難であった。アンケートに協力してくださった患者数は、男女ともに夏68名、冬61名で、比較対象としてはよかったと思えるが、看護婦の場合は夏88名に対して冬56名とやや少なかつた。これは、時期的に2月といえば卒業前の看護婦生徒の手不足から看護婦が非常に忙しく、アンケートに答えてもらうことが無理だったからである。前回と同じように、冬期にも実際に終日色物看護衣を着用して勤務してもらい、更にこれをみんなの集まる食堂に飾っておき、よく観察させた上アンケートに答えてもらった。調査の実施に際して、あらかじめ考えたことは、調査対象が最も暑い夏の日から最も寒い冬の日まで約半年間に異動することはあまりないであろうからでき得れば同じ人々に答えていただいた方がよいということであったけれど、それは不可能であった。なぜならば患者が半年も入院となれば重傷に入るが、たいていの場合長くて2カ月から3カ月だったからである。看護婦の場合は大体よかつた。

II アンケートの内容

前回の夏期調査と同じ項目。

[1] 患者に対して

看護衣に関するアンケート

月 日 天気 室内温度

() 科 入院年月日 ()

性別 (男・女) (才)

(丸印をして下さい)

職業 (事務員 公務員 労務員 教師 学生)

その他 ()

学歴 (小卒 中卒 高卒 短大卒 大卒)

その他 ()

住所 (広島市内 郡部 呉市 他県)

I 貴女は現在の白の看護衣をどんなに思われますか。(丸印をして下さい)

1. したしみ易い。 2. 冷たい。
3. 清楚でよい。 4. したしみにくい。
5. その他 ()

II 白衣に対して貴女が一番いいなあと思われるときは、いつですか。

1. 朝 2. 昼 3. 夜
4. 治療のとき 5. 手術のとき 6. ない

III この色物の看護衣の A, B, C, D, E, F は、新しく、アイレストホワイトと呼ばれる白の仲間なのです。他の二着は、昔からの卵色と灰色です。() に書き入れて下さい。

㊦ 貴女が看護衣として最もよいと思われる色の一つを符号で書き入れて下さい。

()

㊧ よいと思われる順に上げて下さい。

1. () 2. () 3. () 4. ()
5. () 6. () 7. () 8. ()

㊨ なぜよいと思えますか。

1. したしみ易い 2. やすらぎを感じる
3. 見てたのしい 4. きれいにみえる
5. その他 ()

IV 各科別に分けるとしてお考え下さい。よいと思われる色の符号を () の中に書いて下さい。

科 内科 小児科 外科 精神科
() () () ()

婦人科 耳鼻咽喉科 皮膚科 眼科
() () () ()

色 A B C D E
 ピンキー アイボリー ビスタチオ クー ル ライラック
 ホワイト ホワイト ホワイト ホワイト ホワイト

F G H
 パール ベー ル ベー ル
 ホワイト イエロー スカイ

V 以上の色を見て今までの白をどう思いますか。

1. 平凡 2. 清潔でよい 3. さみしい
4. まぶしい 5. 白より色がよい。

[2] 看護婦に対して

(1) 現在の看護衣に関するアンケート

() 科 (年令 才)

間に対し解答は○印をして下さい。() には書き入れて下さい。

I 貴女は、現在の白の看護衣をどんなに思っていますか。

1. したしみ易くてよい。 2. 冷たい感じ。
3. したしみにくいと思う。 4. 清楚でよい
5. 何となく着ている。 6. その他 ()

II 白衣に対して何か抵抗を感じますか。

()

III 現在の布地がよいと思われませんか。それは何故ですか。

よい 洗濯に耐える 糊つけがきく その他
わるい しわになり易い その他

IV 現在の看護衣のデザインについて感じられる点は。

1. 大変よい。 2. このくらいがよい。
3. 古くさい。 4. 何とも感じない。
5. その他 ()

V 現在の看護衣のよいと思われる点について

1. 衿の型 2. 裾巾 3. 袖丈
4. 着丈 5. 身巾 6. 袖の具合
7. あきの位置 8. その他 ()

不便に感じている点について。

1. 衿の型 2. 裾巾 3. 袖丈
4. 着丈 5. 身巾 6. 袖の具合
7. あきの位置 8. その他 ()

VI その他ご意見があればお書き下さい。

(2) 色物看護衣に関するアンケート

I この色物の看護衣の A, B, C, D, E, F は新しく、アイレストホワイトと呼ばれる白の仲間なのです。他の二着は、昔からの卵色と灰色です。

次の問に対し () の中に書き入れて下さい。

① 貴女が看護衣として最もよいと思われる色の一つを符号で書いて下さい。

()

② よいと思われる順に上げて下さい。

1. () 2. () 3. () 4. ()
5. () 6. () 7. () 8. ()

③ なぜよいと思いますか。

1. したしみ易い。 2. やすらぎを感じる
3. 見てたのしい。 4. きれいにみえる。
5. その他 ()

II 各科別に色分けするとしてお考え下さい。

よいと思われる色と科を線でつないで下さい。

内 科	A (ピンキーホワイト)
小 児 科	B (アイボリーホワイト)
外 科	C (ピスタチオホワイト)
精 神 科	D (クールホワイト)
婦 人 科	E (ライラックホワイト)
耳鼻咽喉科	F (パールホワイト)
眼 科	G (ペールイエロー)
皮 膚 科	H (ペールスカイ)

III 病院内一色にするのと各科別とでは、どちらがよいと思いますか。

1. 院内一色 2. 各科別色分け

IV 貴女の着てみたい色はどれですか。

()

お忙しい中をご協力ありがとうございました。

III 結果および考察

アンケートの結果について、夏・冬を比較してみると、先づ白衣に対して「あなたは現在の白の看護衣をどんなに思っているでしょうか」には、患者、看護婦とも夏も冬も「清楚でよい」が一番多いようであった。

見る立場の患者に対しては、白衣の一番よいと思われるのが夏も冬も治療のときで、手術のときとは違って安易な気持ちで看護婦の服装も観察できるだけ心のゆとりがあるせいか、一番接する時間が多いからかとも思えた。

図3は、調査した病院の看護衣であるが、前回(第1報)にも発表したように年令を問わず誰にでも向く衿で、しかもアイロンかけが楽だという特徴がある。夏期のみ短袖を着用。

着る立場の看護婦に対して、「現在の看護衣のDesignについて感じられる点は」に対する答えの結果は、夏・冬通して「このくらいがよい」が半数を示し、夏の「古くさい」と答えた

図1 「あなたは現在の白の看護衣をどんなに思っていますか」

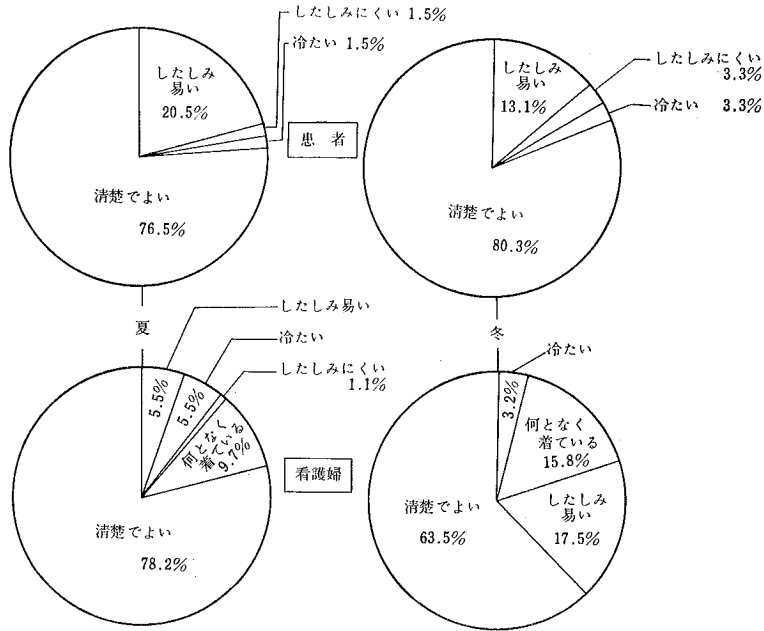
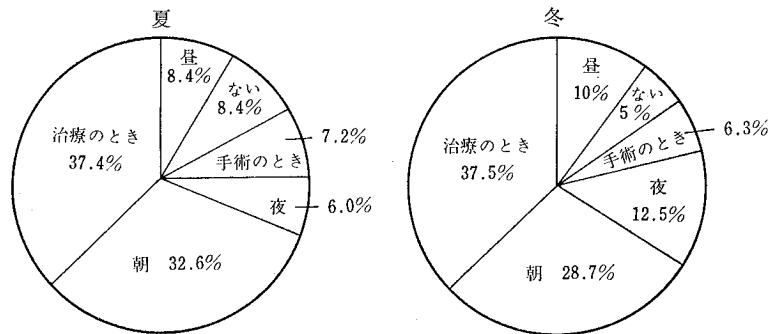


図2 患者に対して「白衣に対して一番よいなあとと思われる時は、いつですか」



ものに対し冬は「何とも感じない」のが多いのは、夏の時期の方が服装に関心がもたれるためのものである。(図4)

なお「その他」としてあげられているのは、「ウエストの切替の位置がさがりすぎている」つまり「背丈が体に合っていないのでベルトをしめたときはよいが手を上げると無理がくる」「裾幅が広い」と答えているなどで、やはり量産製品であることと加工賃つまり予算などが大

いに影響していると思われる。

第2報、第3報に述べたように機能的な面を考慮して Design し、色物で試作して、実際に着用して看護婦としての勤務をしている状態を観察してもらった結果から、夏と冬とで、あるいは患者と看護婦とで比較してみると次のようになった。8色の看護衣に対して、「あなたが看護衣として最もよいと思われる色の一つを符号で書いてください」の結果については、図6の

図3 某病院の看護衣

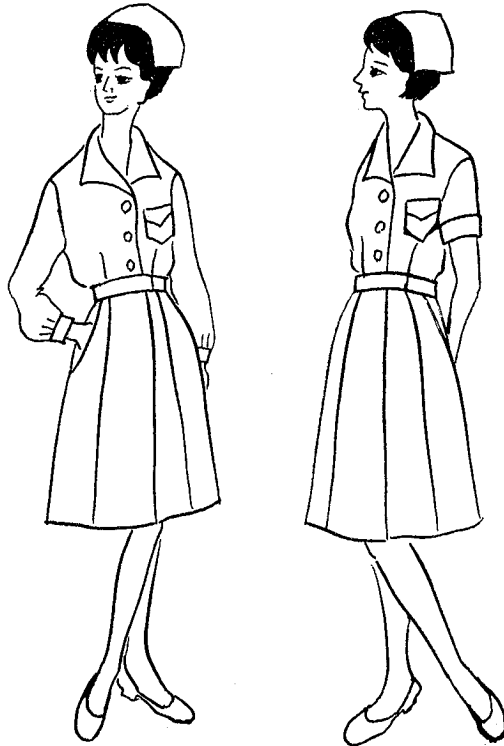
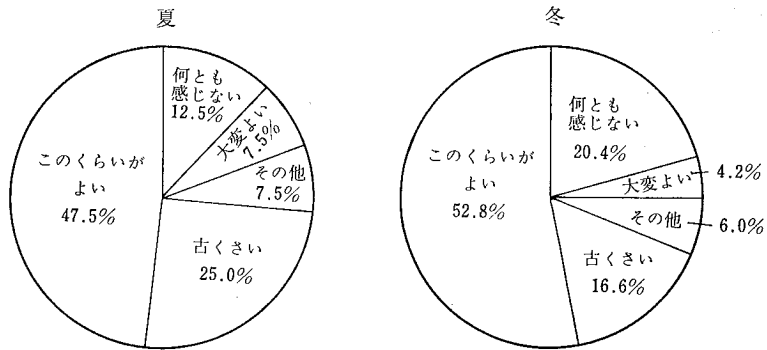


図4 看護婦に対して「現在の看護衣の Design について感じられる点は」



ように、患者の場合、夏は F 35.5%、C 19.3%、E 19.3%の順で、冬は C 43.7%、F 25.0%、A 18.3%であった。看護婦の場合は、夏 C 47.8%、D 32.8%、F 10.4%、冬 D が、32.6%、C 26.7%、F 22.3%であった。図7に示すように、よいと思われる順に上げられたもの

のうち1位だけをひろってみると同じ結果になった。つまり患者の場合、夏F、冬C、看護婦の場合、夏C、冬Dであった。

更に看護婦に対して、「病院内一色にするのと各科別に色わけをするのとでは、どちらがよいと思いますか」の答えは、夏・冬ともに「院内

表2 試作した看護衣のカラーについて

アンケートの整理記号	カラー名	カラー番号	色相系統	マンセル記号	
A	ピンキー ホワイト	01	赤系統	10R P 9.3/0.5	アイレストホワイト
B	アイボリー ホワイト	02	黄 //	10Y 9.3/0.2	
C	ピスタチオ ホワイト	03	緑 //	5B G 9.3/0.5	
D	クール ホワイト	04	青 //	10B 9.3/0.5	
E	ライラック ホワイト	05	紫 //	7.5 P 9.3/0.5	
F	パール ホワイト	06	紫青系	10P B 9.3/0.3	
G	ペールイエロー	8	黄 //	5.5 Y 9.0/1.5	
H	ペールスカイ	18	青 //	3.0 P B 8.0/2	

A～Fは、日本ユニホームセンター発行 アイレストホワイトについてによる。

図5 試作した看護衣



一色がよい」が圧倒的だった。しかし他に「小児科だけでも違えた方がよい」という意見もあった。これは白衣をみるとかわがる子どもが多いので、色物だったらどうだろうかということから色物看護衣の研究を始めたのであったが、近頃やっと問題にされてきたようである。

看護衣として着用してみたい色は夏C、D、冬D、C、であった。Cは非常にさわやかであり、Dは蛍光染料をきかせたくらいなので、どちらも年齢を問わず着用可能である点から選ばれたようである。

「色物看護衣をなぜよいと思いますか」に対しては、患者、看護婦ともに夏は「安らぎ」を感じ、冬は、「きれい」にみえるが大多数であっ

図6 色物の看護衣に対して

「あなたが看護衣として最もよいと思われる色の一つを符号で書いてください」

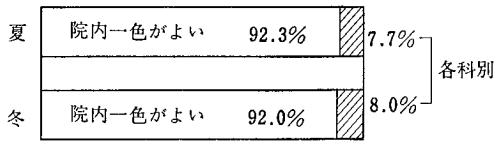
患者	夏	F 35.5%	C 19.3%	E 19.3%	D 16.1%	A 6.5%	B 3.3%
	冬	C 43.7%	F 25.0%	A 18.3%	H 6.2%	D 3.4%	B 3.4%

看護婦	夏	C 47.8%	D 32.8%	F 10.4%	B 4.5%	A 1.5%	E 1.5%	G 1.5%
	冬	D 32.6%	C 26.7%	F 22.3%	B 18.4%			

図7 「よいと思われる順に上げられたものの1位をみると」

患者	夏	F 30.8%	C 23.0%	D 19.2%	E 15.4%	B 7.7%	A 3.9%
	冬	C 59.3%		A 22.2%	F 14.8%	H 3.7%	
看護婦	夏	C 46.6%		D 30.0%	F 15.0%	A 3.3%	B 1.7% E 1.7% G 1.7%
	冬	D 31.4%	C 26.0%	F 21.3%	B 21.3%		

図8 看護婦に対して
「病院内一色にするのと各科別とではど
ちらがよいと思えますか」



た。つまりそれは冬期には周囲の灰色のムードの中にあっては、きれいにみえるということ
で、いこいが与えられる結果であり、夏の刺激の強い色彩の中にあっては、やすらぎを感じる
ものと思われた。看護衣として使用しうる好ましい色物であると考えられる結果であった。

図9 看護婦に対して
「あなたの着てみたい色はどれですか」

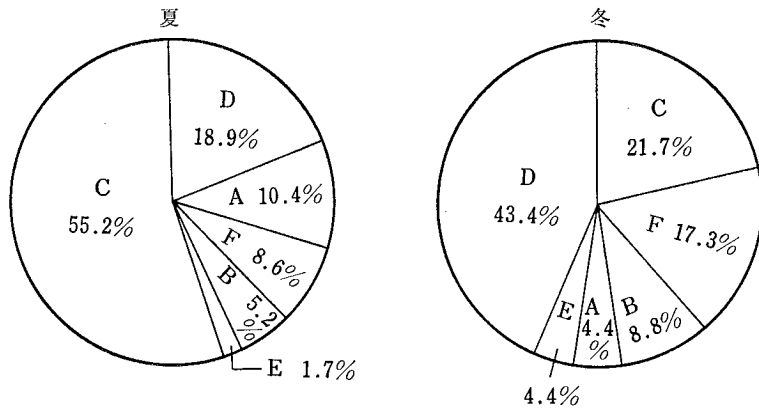
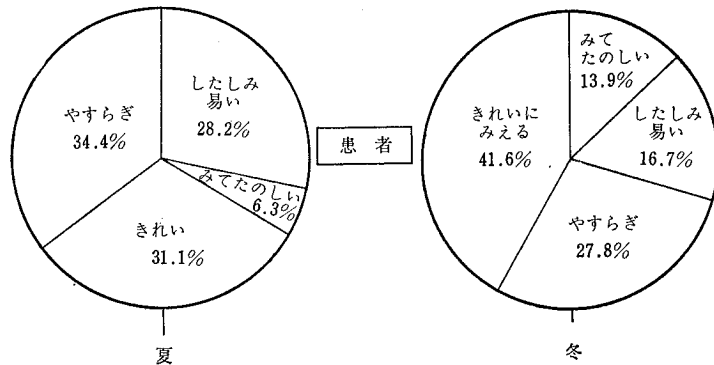
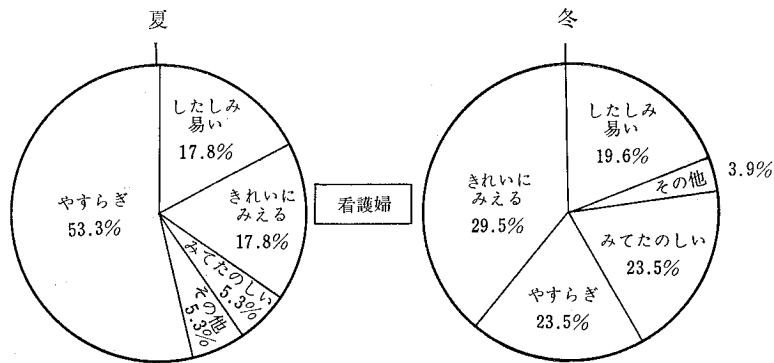


図10 「なぜよいと思えますか」





総 括

白の仲間として発表されているこのアイレストホワイトの6色と他の2色を加えての着装実験において、夏・冬の比較の結果、看護衣として望ましいという結論をえたが、しかし、すぐ色物にかえられないものがある。伝統的な白に対する愛着は、すぐにぬぐい取られることは不可能であると同時に色物に対する洗濯結果などの不安感によって大きく左右されている。長い間の習慣から糊づけしたものを身につけたいとする現状において、看護衣にふさわしい色物の布では材質上、糊をかかすことが困難であることと透けてみえるという心配もある。したがって下着の工夫ということが考えられる。そこで東京の某診療所を尋ねてみると、透けることに対して看護衣の上に胸あてのついたエプロンを着用していた。これはつまり2枚着衣の状態であって上記の欠陥に対応したのである。その他、木綿の色物を使用していたが、洗濯により色があせたので元通りの白衣になってしまったという病院も1カ所あった。変色しなく、色彩も美しくということになるとポリエステル混紡のものになるのであろうが、防しわ性、軽装といったよ

い点はあっても洗濯による毛波の問題などあり素材に対する要望が大なのである。

本研究の第2報、3報、4報を総括したものを、去る5月11日に本学において行なわれた日本家政学会第15回中国四国支部総会で発表した。この発表にあたり御助言いただいた海見教授に深謝します。

なお本研究にあたり広島市内のS病院の院長先生の御理解のもとに協力して下さった患者の方々、看護婦の方々に心より感謝申し上げます。

参 考 文 献

- 1) 拙稿 看護衣の被服構成学的研究 (第1報) 広島文化女子短大紀要 1966, 12.
- 2) " 看護衣の被服構成学的研究 (第2報) 広島文化女子短大紀要 1968, 8. 一機能的 Design と採寸法の検討一
- 3) " 看護衣の被服構成学的研究 (第3報) 広島文化女子短大紀要 1968, 8. 一色物看護衣の試用調査一
- 4) 山崎勝弘 衣服の色 光生館 1965, 3.
- 5) 西川好夫 新・色彩の心理 法政大学出版局 1962, 6.
- 6) 星野昌一 色彩と生活 毎日新聞社 1958, 7.

Summary

In order to produce more functional nurse-uniforms, we have been making researches from the point of design and color. We had already made summer survey using colored materials. This time we made winter counterpart at a certain hospital and compared it with that of summer.

The following is the summary of report:

The percentages of preference, by the nurses and the patients, upon six colors of eye-rest white and two other colors, are as follows:

The patients	{summer	F. 35.5%	C. 19.3%	E. 19.3%
	{winter	C. 43.7%	F. 25.0%	A. 18.3%
The nurses	{summer	C. 47.8%	D. 32.8%	F. 10.4%
	{winter	D. 32.6%	C. 26.7%	F. 22.3%

Most of the patients preferred F. in summer and C. in winter while the nurses did C. in summer and D. in winter. In answer to the question why they liked colored uniforms, most of the patients and the nurses said they felt the sense of restfulness in summer and that of beauty in winter. In short they desire uniforms that give them restful sense in winter in grey circumstances and in summer calmness from looking pretty among sensational and colorful surroundings.

The legends: A=pinky white
 B=ivory white
 C=pistachio white
 D=cool white
 E=lilac white
 F=pearl white
 G=pale yellow
 H=pale white